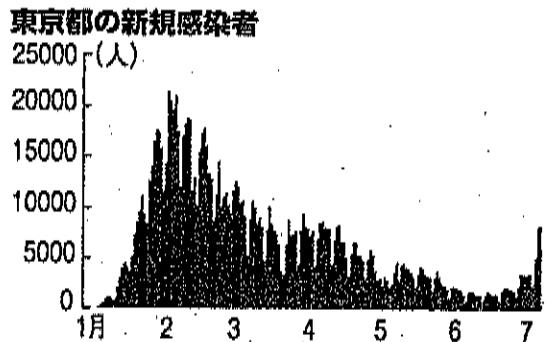


7/8 朝日

東京「第7波入り可能性」

東京都は7日、新たに8526人の新型コロナウイルスの感染を確認したと発表した。8千人超は2日連続で、1週間前の2・4倍に急増した。病床使用率は28・7%。専門家による同



日の都モニタリング会議で、東京感染症対策センターの賀来満夫所長は「第7波」に入ったとも考えられる」と状況を分析した。▼4面=「行動制限考え方」

都内の感染者数は、6月

末ごろから増加傾向が顕著になつた。同会議では一因として、より感染力が強いとされるオミクロン株の亜系統「BA・5」への置き換わりが指摘された。都健康安全研究センターの検査では、BA・5の疑い例が6月21～27日はオミクロン株疑い例の33・4%。前週は25・1%だった。

の大曲貴夫氏は、同じペースで増加が続けば新規感染者数（週平均）が2週間後に約1万6千人に、4週間に約5万5千人になる

と推計。同会議では、新規感染者数が第6波のピークの2倍に達した場合、都の確保病床数を上回る入院患者が出るという分析結果も示された。ただ重症患者については確保病床数が多く、病床が足りる可能性があるとされた。（國口佳代子）

大阪の感染 1.92倍に

直近1週間 変異系統3割弱

大阪府で新型コロナウイルスの新規感染者数が2週間連続で増加傾向にある。

7日までの直近1週間の新規感染者数は2万1596人で、前週比1・92倍。オミクロン株の変異系統への置き換わりが進んでいるとみられる。▼1面参照

吉村洋文知事は6日の記者会見で「オミクロン株の変異系統が（感染拡大の）一番大きな要素とみていい」と指摘した。

府の検査では、感染力が強いとされる「BA・5」か「BA・4」と疑われる検体数の割合が、6月20・26日の約8・6%から、6月27日～7月3日には約6・9%に増加していた。新規感染者数は年代別でも、行動範囲が広いとされる20～30代での増加が6月

末にみられたが、その後すぐさまこの年代で増加。吉村知事は「感染力が強い。第6波と似たような波にならうよう、検査キットを無料配布している。

一方、飲食店への営業時間の短縮要請などについて、吉村知事は「都道府県

は国の基本的対処方針に従つた対策を取るしかない」とし、「現在の方針でいいのか国は議論してほしい」と述べた。（新谷千布美）

る可能性がある」と指摘した。第6波では高齢者施設などのクラスターで死者が多く出た。府は対策を強化し、施設の従事者に3日に1回の定期的な検査をしてもらいうよう、検査キットを無料配布している。

一方、飲食店への営業時間の短縮要請などについて、吉村知事は「都道府県